

# 歴史教材における文章レイアウトが 内容の再生に及ぼす影響

-文章の順序性の有無による違い-

○鶴園隆行・森田愛子  
(広島大学大学院教育学研究科)

## 目的

本研究では歴史教材におけるレイアウトの有効性を検討する。特に、歴史教材の中で順序性が異なることに着目する。順序性とは、文章内に時系列や因果関係が存在するか否かを指す。レイアウトとしては、箇条書き(以下箇条型)かそうでない文章形式(以下文章型)かを操作する。歴史教材ではない文章について、先行研究では、箇条型が文章型より読解時の主観的理解度や再生課題成績が高いことが示されている(関・赤堀, 1994; 島田・平野, 2016)。しかし、歴史のように順序性がある文章では文章型の方が理解しやすい可能性がある。

本研究では、鶴園・森田(2019)と同様の刺激を用い、文章内容の再生率を測定する。順序性がない文章で箇条型の方が、順序性がある文章では文章型の方が再生率が高くなると予測した。

## 方法

**参加者** 43名が参加した。

**実験計画** 内容の順序性(あり・なし)を参加者間で操作した。刺激のレイアウト(文章型・キーワード箇条型・等価箇条型)を参加者内で操作した。

**刺激文章** 中学歴史の教科書・参考書から文章を抜き出し、架空の時代・地域についての文章に加工した。そのうえで、実際に教科書・参考書で使用されている文章レイアウトを参考に、次の3条件の刺激を作成した。(a) 文章型条件では、箇条書きを使用せず、文章の形式で提示した。(b) キーワード箇条型条件では、文章全体で重要となる人物や出来事などの名称を箇条書きで項目化し、それぞれの説明を項目に続けて提示した。(c) 等価箇条型条件では、文章内容の時系列が分かるように出来事を項目化し、それぞれの説明を項目に続けて提示した。ただし、時系列を重視しない順序性なし条件においては、等価箇条型条件を作成できないため、作成しなかった。順序性あり条件の刺激文章を3種類、順序性なし条件の刺激文章を2種類作成した。

**手続き** 集団実験を実施した。まず文章を3分間読ませる読解課題を行った。次に、2分間筆算問題

を解かせる干渉課題を行った。最後に読解課題で読んだ文章内容を書き出させる再生課題を行った。以上の3課題を合わせて1試行とし、順序性あり条件では3試行、順序性なし条件では2試行を行った。実施する課題の説明は、1試行目開始前に行った。

## 結果と考察

再生率の算出のために、まず各刺激文章を、邑本(1992)のアイディアユニット(Idea Unit: 以下, IU)の分類基準に従ってIU単位に分け、総IUとした。そのうえで、各参加者が各条件下で再生した文章も同様にIU単位に分け、その数を算出した。各刺激文章の総IUのうち、再生されたIUの割合を再生率とした(Table 1)。順序性あり・なし条件のそれぞれでレイアウトの効果について1要因分散分析を行った結果、有意差はみられなかった。つまり、順序性の有無にかかわらず、レイアウトは再生に影響しないという結果であった。先行研究と併せて考えると順序性のない文章でみられるはずの箇条型の優位性(関・赤堀, 1994; 島田・平野, 2016)が、鶴園・森田(2019)でも本研究でもみられなかった。順序性がなくても歴史教材の場合は文章型の方が読みやすかったり覚えやすかったりする可能性がある。一方、順序性のある文章では文章型のほうが読み手は理解しやすく感じるが、再生に有効であるとはいえないというギャップがあることが明らかになった。

Table 1  
各条件におけるIUの再生率

		再生率	SD
順序性あり	文章	0.22	0.10
	キーワード箇条	0.21	0.13
	等価箇条	0.19	0.12
順序性なし	文章	0.22	0.11
	キーワード箇条	0.27	0.15